

第4回みなまた地域創生ビジョン研究会

平成28年7月7日（木）

【岩橋室長】 では、お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから「みなまた地域創生ビジョン研究会」第4回会合を開会させていただきます。

委員の皆様方には、大変お忙しい中お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

まず、本日の出席状況ですが、全委員数8名のうち、5名ご出席されておられます。

次に、お手元の資料の確認と取り扱いについてご説明いたします。お手元のダブルクリップでとめてある資料でございますが、まず表紙に議事次第、1枚めくっていただきまして、資料1「委員名簿」、めくっていただきまして、資料2「第3回の意見の概要」、これが9ページまであります。その次にパワーポイントの資料3「(仮称)3世代育み健やかタウンについて(案)概要版」、これを2枚めくっていただきまして、資料4「(仮称)3世代育み健やかタウンについて(案)」、2枚めくっていただきまして、資料5「めざす地域社会像について(案)」をお配りしております。

資料と参考資料には、右上に四角の囲みでそれぞれ資料の番号を表示しておりますので、そこを見ていただきますと開きやすいと思います。また、資料ごとに左上をホチキスでとめておきまして、ページの番号は資料ごとにつけております。一つ一つ資料をご確認いただきまして、もし不足している場合にはお申しつけください。

本日の資料やご意見等につきましては、原則全て公開とし、後日、発言者名を示した議事録を各委員にご確認いただいた上で公開させていただきます。

それでは、この後の議事進行につきましては、永松座長にお願いいたします。

【永松座長】 皆さん、こんにちは。4時までには終わるべく頑張りたいと思います。

今日は、今、岩橋室長のほうからお話がありました3世代育むまちに関するコンセプトを皆さんでお決めいただき、もう一つは、ネーミング、それからビジョンですね。具体的なイメージがないとなかなかどんな水俣が望ましいかというのがわかりませんので、そのビジョンについての意見交換という内容で進めてまいりたいと思います。

まず最初に、前回いろいろな意見をいただきましたので、その概要をもう1回おさらいしたいと思います。そして次に、前回、目指す地域社会像の方向性としてこれでいいので

はないかということで決まりました「3世代を育む健康的なまち」をもっと具体的に、どのようなまちかということがわかるようなコンセプトの案を事務局のほうから説明していただきたいと思います。それから、そのコンセプトに基づいて、皆さんにいろいろな意見を聞いて議論をした上で決めていきたいと思います。それから、このコンセプトを一言でうまいことあらわすネーミングの案についても議論をしていただきたいと思います。

その後は、決まりましたコンセプトを踏まえまして、目指す地域社会像の標語の案ですね。標語の案というのはネーミングとは違うんですけど。

【岩橋室長】 はい。ネーミングとは少し違います。

【永松座長】 少し違うそうでございますので、ここら辺の違いは事務局のほうから説明していただきたいと思います。

それでは、まず資料2のほうから、順を追って事務局から説明いただきたいと思います。

【岩橋室長】 それでは、資料2をごらんください。前回いただきましたご意見を事務局で五つの点にまとめておりますので、1ページ目からそれぞれ読み上げていきます。

まず1点目は、めざす地域社会像の方向性や課題に関して、事務局案の「3世代を育む健康なまち」についていただいたご意見です。

点線囲みの下を見ていただきますと、まず、松永委員から、方向性は全体像としてわかりやすく、絞れていて、懐が深く、いろいろなものが含まれるものになっている。課題は、参加する子供や高齢者などの動機づけをどうデザインしていくかが重要。例えば、お年寄りの方には、教え方やコミュニケーションの仕方を身につけてもらったり、デザイン、仕掛け、ツールの準備が必要。そうしないと「昔はね……」ですとか「大体最近の若いやつは……」というトーンになりがち。課題は、もう一つクリアできそうなものを設定する。個人の目標なのか、地域の目標なのかを明確にする。ゲームのように、クリアしたときの報酬、ご褒美的なものを見える化する。モチベーションやインセンティブへつなぐというご意見がありました。

続いて、牧迫委員から、方向性や概念は非常に同感する。「3世代でつないでいく」という大きなテーマがあり、着地点としては非常にいいだろう。また、課題は、やることの動機づけと実感する効果。継続できて、やっていいなと感じるものがあるといい、というご意見がありました。

続いて、藤本委員から、この方向性は大多数で受け入れられ、多くの人が課題と思っていることだろう。例えば、品川区には「おばちゃんち」という仕組みがある。ただし、自

治体の単位で地域として一つにまとまってモデル化された事例がないので、水俣で理想のモデルまでたどり着けるといいと思う。また、課題は、コミュニケーションの仕方、教え方のカバーだが、私の取り組みの一つでは、退職をされた学校の先生に活躍してもらっているというご意見がありました。

次に、勢一委員から、基本的に「交流」が大切だというのは非常に理解している。また、課題は、うまくやるための仕組みをつくること。何か目に見える目標があって、それをみんなでクリアしましょうというコンセンサスが必要。日常的にふらっと立ち寄れるような交流の場が日常の生活の中では大切だと思うということで、角打ちの例を紹介されました。

次に、水俣環境アカデミアの古賀所長から、場の雰囲気やセッティング次第ではいろいろなものができるだろう。伝えたいものと学びたいものが一致するところがセットされれば、やわらかい新たな場ができるだろう、というご意見がありました。

石原委員から、「美しい環境のもとで」という言葉は、「美しい」よりは「未来につながる環境」とか「命が育む環境」というように、ちょっと言いかえたほうがいいのかと感じた、というご意見がありました。

植木委員から事前意見といたしまして、「交流」というキーワードに対し、リレー、渡す、つなげる、3世代で未来に渡したい、渡すことを見つけ、考えて一緒に行動するのがいいと思う。例えば「みなまた3代リレー」「3世代3代で取り組む〇〇〇!」。公表して優秀な取り組みは表彰するというので、事前にメールでご意見をいただきましたので、当日、紙の形で皆さんに紹介いたしました。

次に、3ページに行きまして、二つ目の点です。(仮称)3世代育みタウンのコンセプトについていただいたご意見です。

まず、牧迫委員から、マッチングポイントは、必ず子供と接点があるところという定義になるのだろう。「マッチングさせたポイントがいっぱいあるよ」というコンセプトはすごく賛成で、いいと思う、というご意見がありました。

次に、松永委員から、3世代というのはすごくいいと思う。3世代というのは単純に子供と保護者と高齢者というだけではなくて、ずっと未来につないでいくという意味だと思う。だから、この年代が入っていないというよりも、全ての世代がつながっていて、しかも未来に続いていくというイメージ、というご意見がありました。

石原委員から、「3世代育みタウン」は、3世代が育まれているというように聞こえるし、同時に、3世代で次世代を育むというイメージにもとれて悪くない。未来に続いてい

くところや未来に受け継いでいくという視点が見えるのはすごくいい、というご意見がありました。

また、永松座長から、コンセプトはそれぞれの世代に課題があって、それをうまく結びつけると、子供のためにもなるし、お年寄りの課題解決にもなる、そういうマッチングの仕方を考えましょうという趣旨だと思う。交流というのは短期的で、そのときそのときという視点であり、リレーというのは、もっと長いスパンでの世代間、あるいは違う人たちというかなり視野が広い形での「つなぐ」意味がある。藤本委員が言われた「リレー」「つなげる」「世代間」とか、域内外につなげるという意味合いも含めるべきだろう。「3世代育みタウン」は、現在だけではなくて未来につなげていく、現在と未来のマッチングポイントという視点もあったほうがいいことを石原委員が述べられた。「幸せに暮らす」という意味が入ったほうがいいだろう、というご意見もあったということでした。

5ページに行きまして、3点目の、子供を介した仕掛けについてでございます。

藤本委員から、「次世代をつくっていく子供たちをみんなでこういうふう育てていきますか」というように、主役を子供に絞ってしまうほうがいいのかと思う。

松永委員から、仕掛けとしては子供に焦点を当てたほうがいい。いろいろな事例を見ても、子供を使うとみんな集まってくる。子供のためだったら頑張ってしまう気がする。子供を介していろいろな方向に展開できそうな気がしている、というご意見がありました。

続きまして、永松座長から、今回の地震でも、避難所などで子供たちが掃除をしたり、無邪気に笑いながらおにぎりを配っている子供たちを見ると、疲れ切った大人たちも元気が湧いてくる。自分たちもやらなければいけないと思う。子供には不思議な力がある。子供自身の経験にもなる。こういうやり方は確かに非常に大事だと思うというご意見がありました。

次に、石原委員から、健康政策への取り組みを国立保健医療科学院でまとめたことがある。大人健康行動を変えるときに、例えば、子供が学校で体にいいものを学んできて、その子が家でお母さんに話す、大人に話すということで、子供をまず教育し、そこから大人を変えていくというのが非常におもしろい。それを応用して水俣でやってみたいと思う。また、メンタルな健康についても、水俣で誇りとアイデンティティーを持って生きていけるように取り組みたい。例えば、高齢のおじいちゃんに子供が「昔の水俣ってどうなの」と聞きながら、もしくは、おじいちゃん、おばあちゃんが「あんたたち、どんなことを学

校で習っているんだい」ということを聞きながら、水俣病とか水俣に住む者としてのアイデンティティーみたいなことも含めて交流していけるような場があるといいと思うというご意見がありました。

次に、7ページに行きまして、4点目の、3世代を育む対象者についてのご意見です。

勢一委員から、もっと広く人々が全部入るのがいいと思う。子供を育むというのは、親以外の人たちがみんなで育てていくのがいいわけだから、単身者であっても大学生であっても一緒に育んでもらえるというのが、多分この育みタウンの趣旨だと思う。高校生や大学生は実働部隊になる。一緒に巻き込んでやれば担い手の候補の一人になると思うというご意見がありました。

永松座長から、元気でない高齢者は入れなくてもいいのだろうか。よく考えると、高齢者は何かしら病気を持っているので、どこまでが元気な高齢者かわかりにくい。おじいちゃん、おばあちゃんも保護者に入ってしまう、というご意見がありました。

また、石原委員から、例えば「子供・大人・高齢者のマッチングポイント」というふう一般化してはどうか、というご意見がありました。

次に、8ページに行きまして、5点目は、委員からいただきました事例の紹介です。

まず、松永委員から、高校生が、住んでいる地域の課題を解決するために自分自身のプロジェクトをつくり、地元で実施する取り組みがある。高校生と大人だけだと距離感があったが、大学生が入ることで少し気楽な関係を築けた。

島根県の海士町は過疎の島だが、高校生を軸にしたまちづくりをしている。高校の授業で地域に入り、漁業の話の聞いたり、昔の話の聞いたり、一緒に何かしている。そうすると、最初は「そんなの、外のよく知らん地域から高校に入ってきて何の役に立つの」と言っていた人たちが、だんだん変わっていく。そこで、よく「大人が変われば子供が変わる。子供が変われば未来が変わる」と言われている。だから子供をうまく使えたら、ほんとうに3世代がつながっていく気がするという事例の紹介がありました。

また、牧迫委員から、高齢者が集える場、スペースを市が「健康の自生地」として認定する仕組みがある。市内に数十カ所あり、看板を掲げている。そこへ行くとポイントがたまり、年1回応募できる。自生地で何をするかは、それぞれの自生地がみずから決めていく、というご紹介がありました。

また、石原委員から、非行少年などもいる高校での取り組みとして、地元の休耕田を地域のおじいちゃんと高校生と一緒に耕すことで、高校生も高齢者には悪いことができない

し、孫の気持ちで温かく迎えてもらえると、心が育まれる。そして、高齢者の方々も高校生がいると労働力になるし、未来を伝えていくということになる。さらに休耕田が復活するというおもしろい取り組みがある、というご紹介がありました。

また、勢一委員から、「姪浜西南大学まち」というプロジェクトで、大学生が商店街にボランティアとして参加している。例えば、その商店街にM's コミュニティという名前の交流の場をつくって、そこでいろいろなイベントを企画している。関心があるときだけそこに行けばいいという感じのこともやっているので、交流の場を考える上で参考になるかと思う、というご紹介でした。

最後に、永松座長から、社会において自分の考えやプランを実際にやってみる空間を与えると、今の若い人たちでも予想以上の力を発揮する。具体的に子供とか若い人たちにチャンスを与えるようなプログラムの提言も、この委員会で考えていいのかなと感じた、というご紹介がありました。

以上です。

【永松座長】 ありがとうございます。これまでアイデアも含めて、いろいろな形で皆さんにご意見をいただきました。

それでは、続けて、資料3と資料4を事務局から説明してもらいたいと思います。

【岩橋室長】 それでは、資料3をごらんください。囲みの中を読み上げます。

本日は、めざす地域社会像の方向性（3世代を育む健康なまち）を具体化するために、まず、（仮称）3世代育み健やかタウンのコンセプトの決定、そして次に、ネーミングの決定に向けて議論していただきたいと考えております。

特にポイントとなるのが4ページでございます。2コマ目をごらんください。一番下に雲の絵を描いております。その中に緑色で示しておりますのが、めざす地域社会像の方向性として前回決めていただいたものです。

めくっていただきまして、4コマ目をごらんください。この4コマ目に先ほどの「3世代を育む健康なまち」というものを具体化するためのコンセプトの案を示しております。前回いただきましたご意見を踏まえて、アンダーラインを引いております部分を事務局で肉づけしております。

また、上の3コマ目をごらんください。3コマ目にはネーミングの案を示しております。ネーミングは、（仮称）3世代育み健やかタウンで、その下に、サブタイトルの案といたしまして、今二つ上げております。

それでは、4コマ目に示しております点線囲みの中を読み上げます。

(仮称) 3世代育み健やかタウンのコンセプトは、点線囲みの中にありますように、例えば、子ども、その親世代、高齢者の交流の場が多種多様に設けられ、日ごろから交流を重ねて、子どもやその親世代が健やかに成長し、高齢者の生活がいきいきと充実し、3世代が幸せを実感しながら、みんなの健康(心や体、社会的な健康)をよりよく育み、未来につないでいくまちとしてイメージをしております。

前回の案では、多くの市民のうち、対象者、ターゲットを絞っていましたが、今回の案では全ての市民が入るようなことを考えております。詳しくは、後ほど説明をいたします。

続きまして、5コマ目に、交流の場、イコール、マッチングポイントの参考イメージをつけております。このマッチングポイントとは、水俣市内のあちこちに、水俣にあるものを活かして、多種多様な場が設けられ、多くの市民がコンビニ感覚で好きなところを数カ所選んで気軽に利用する場をイメージしております。つまり、マッチングポイントでは、曜日や時間、メニューがさまざまに用意されていて、日ごろから子供、その親世代、高齢者まで全てのライフステージを対象とした交流が、子供を介して自主的に行われる、ということ想定しております。

7コマ目に、マッチングポイントの参考例といたしまして5種類の場を上げております。これは前回は説明したと思うのですが、①、②が交流の頻度が高く、④、⑤になるにしたがいまして交流の頻度が低くなるというように、①から⑤まで交流の頻度に応じまして五つの類型に今分けております。

そして、8コマ目に、水俣にあるものを活かすということで、場や人、仕組み、こういったものを活かしていけたらいいなというものであります。

では続きまして、資料4で今のイメージを詳しく説明してまいりたいと思います。

資料4では、(仮称) 3世代育み健やかタウンのコンセプトを明確にするために、用語の定義を示しております。

まず、「3世代」という言葉がネーミングの頭にありますが、「3世代」とは、胎児から高齢者まで、全てのライフステージを対象とし、子供、その親世代——胎児を含みます、高齢者の三つに大別するという事です。

この「3世代」というのは、現在の3世代とともに、未来の世代につないでいくという意味があります。例えば、胎児は体内に卵子を持っているので、妊娠中の母親の生活が将来の3世代、つまり妊娠中の母親と胎児とその胎児の卵子であるその子を育むことにな

るというわけです。

次に、「子ども」ですが、「子ども」とは、乳児期、幼児期、学童期——小学生の時期です、それと中高生と考えております。

次に、「その親世代」ですが、「その親世代」とは、成人期、おおむね19歳から39歳ぐらい、それとその次の中年期、おおむね40歳から64歳と考えております。

そして、「高齢者」ですが、おおむね65歳以上ということで分けております。

次に、「交流の場」、すなわち「マッチングポイント」です。「交流の場」とは、3世代の人たちが互いに行き来し、さまざまな物事のやりとりが行われる場です。水俣市内のあちこちに、水俣にあるものを活かして多種多様に設けられ、曜日や時間、内容がさまざまに用意されていて、コンビニのように好きなところをいつでも気軽に利用するイメージです。このような場を「交流の場（マッチングポイント）」と称するということです。

続いて、2ページに行きまして、「多種多様」とは、数や種類が多いさまをいいます。バラエティーに富んだ状態です。

次に、「すこやかに成長」ということです。これは子供とその親世代とあるわけですが、まず、子供のほうの「すこやかに成長」とは、子供が安心して近所で遊べて、食事や睡眠の生活リズムがよくなり、心身ともに充実しつつ成長していることをいいます。例えば、人とのかかわりの中で、愛情や信頼感、優しさや思いやりを強く有し、地域でのいい記憶や実体験が豊富になり、生活力も向上しているという状態です。

次に、親世代のほうの「すこやかに成長」とは、子供の親世代が一次予防として生活習慣の改善や健康増進に努めており、また二次予防として、健康診断や保健指導を受診するなど常に健康を意識しながら地域の担い手として成長していることをいいます。例えば、地域でのいい記憶や豊富な実体験、自主的な会への参加など、地域における連携を通じて地域への愛着心を深め、生活の知恵が受け継がれている状態をいいます。

次に、「いきいきと充実」とは、高齢者がみずからの健康に配慮しつつ、知識や技能、スポーツや趣味などを活かして、人の役に立ち、居場所を見つけて、生きがいを感じていることをいいます。

次に、「健康」とは、病気でないとか、弱っていないということではなくて、肉体的にも精神的にも、そして社会的にも全てが満たされた状態であることをいいます。

次に、「育み」とは、各世代が、交流による相乗効果により、それぞれの課題の解消を図りつつ健康を増進していることをいいます。

最後に、「健やかタウン」とは、顔の見えるコンパクトな環境のまちで、3世代の育みにより、幸せを実感しながら、みんなの健康を未来につないでいくまちをいいます。

一番最後に、参考といたしまして、現在の国の法体系と水俣市の健康に関する計画を簡単にまとめております。

以上です。

【永松座長】 ありがとうございます。

それでは、まず資料3の4コマ目の点線囲みのところについて、皆さんにご意見をいただきたいと思います。ここは「3世代育み健やかタウン」というのは具体的にはこういう内容が盛り込まれているものだという要約的な説明の部分なんですね。この資料でいくと、それをコンセプトと名づけてあるわけですがけれども、ここの部分に関して、漏れがないとか、足りない視点がないとか、そういった観点から皆さんのご意見を伺いたいと思います。

【牧迫委員】 意見が出る前に。非常に個人的な意見ですが、僕の印象としては、コンセプトなので、最初に「例えば」とくると、ちょっと弱いかなという気がしますので、ここは「例えば」が冒頭にどうしても必要でなければ不要かなと私は感じています。最初に「例えば」というのがなくてもいいのではないかなと思っています。

【永松座長】 この「例えば」ですね。「例えば」と書くと、ほかにもあるのかと言われる。

【牧迫委員】 そうです。なので、どこか途中に「例えばこういうことです」というのはいいような気がするのですが、冒頭にこれが来ると、コンセプトとしてはちょっと。

【永松座長】 そうですね。これは「一例とすれば」という説明ぶりになるということですね。確かにそうですね。

【牧迫委員】 あと、後半のほうにあります「みんなの健康（心や体・社会的な健康）」というところで、なかなかこの三つの並列は難しいとは思いますが、心も体も平仮名のほうが、もうちょっとやわらかさと広がりがあるのかなと。それにあわせて「社会的」というのも少し、もうちょっと違う表現があってもいいのかなとは感じました。どうでしょう、例えば「こころ・からだ・人とのつながり」とかのほうが全体の「健やかに」とか「いきいき」とかにマッチするかなという印象を受けました。あくまでも意見です。

【永松座長】 なるほど、確かにそうですね。「健康とは具体的に何」と聞かれたときに、今の説明のほうがより深みがあるというか、立体的になるというか。

ほかには。

【植木委員】 文章立てですけれども、この文章の中に、まず、「水俣」というキーワードを入れたいなど。例えば、今の「例えば」を外すとすれば、「水俣は」、後半2行の「みんなの健康をよりよく育み、未来につないでいくまちを〇〇〇します」そして、「子ども・その親世代……」というふうに、要するに導入、入り方をコンセプトらしくしていったほうがいいのではないかなと。この使っている言葉はいいんですけれども、コンセプトの文章として組み立てたときに、もっとストレートに入ってくるような組み立てがいいのかなと。だから「水俣」という部分をやっぱり一番最初(主語)に持ってきたほうがいいのではないかと。そうすると、「水俣」と「みんな」でやわらかい感じがするのでね。そう感じました。今、全部ここで作り直すことは無理ですけれども、文章的に切り口としてはそんな感じです。

【永松座長】 それを考えると、ちょっと長いですよ。1文で、ちょっと冗長感があるので。

【植木委員】 もう2行ぐらいカットしないとイケない。

【永松座長】 もう少し、2文にするとか、ちょっとそこもあるかもしれませんね。「水俣は」というのをつけると、1文で全部おさまるかなという感じもしますね。

ほかにございませんか。

【藤本委員】 せっかくなので、環境を守っていくというようなニュアンスのものが少し入ると……。もともと、生活の基盤であった環境破壊によって、いろいろな問題が引き起こされた水俣病です。病気で苦しむ人だけでなく、人とのつながりすら切れてしまったりというのがありましたので、環境の大切さを感じさせるような言葉、環境を守っていくことの大切さというのがあるといいかなと思います。

【永松座長】 そうですね。だんだん難しくなってきましたね。(笑)

【藤本委員】 欲張った感じですね。(笑)

【植木委員】 私は賛成ですね。

【永松座長】 どこに入れるかという話ですね。

【植木委員】 「美しいまち水俣」というふうに、「美しい」と言ってしまうと。

【永松座長】 石原委員は何かございませんか。

【石原委員】 簡単なところですが、この「その親世代」というところが前回も出て、「世代」というふうに広くしていただいたと思うんですけれども、「大人」ではだめなので

しょうか。あえて「親」とする理由は何だったかということですね。

あと、「その親世代」であると、ちゃんというと「その祖父母世代」という発想になると思うので、文言としても「子ども・大人・高齢者」と並べるか、「子ども・その親・その祖父母世代」というか。

【永松座長】 その親。(笑)

【石原委員】 その祖父母というか。だったら「子ども・大人・高齢者」として幅広く、みんなで育んでいくということをシンプルに示しているのではないかと思うのですけれども。

【永松座長】 それは私もちょっと感じています。私の知っている先輩なんですけれども、65歳でまだ高校生のお子さんがいたりするので、親世代であり高齢者である人も少数ながらいるかなとはちょっと感じました。言われたみたいに、では高齢者は大人ではないのかという意見があるかもしれませんけれども、どこまでこれを細かくいうかという話だと思っただけですね。

それともう一つ、「子どもやその親世代がすこやかに成長し」と、親も成長するんだという気持ちはわかるんですけれども、では高齢者は成長しないのか。(笑) だから、個人的には、子供が健やかに成長する、そして親が充実した何とかとかして、高齢者は生き生きと楽しくとか何か分けないと、高齢者は成長しないという形になっちゃうので。

【石原委員】 それに関連して。まさに賛成なんですけれども、おもしろいと思いますのが、普通は子供のみが健やかに成長するのに、親も成長と言っているところで、逆を返すと、みんなで成長というのもおもしろいかなと。文言はすぐに浮かばないのですが、日ごろから交流を重ねて、皆で健やかに成長しとか、環境も入れるとか、そういうもの逆におもしろいのではないかと思います。

【藤本委員】 普段気に留めないことも、大人になってから子供に教えられるようなことが、とてもあると思いますので……。

【石原委員】 そうですね。

【永松座長】 健やかというのは、やっぱり子供に一番合うので。高齢者に健やかにというのもちょっと……。

【石原委員】 健やかに成長、成熟しとかですかね、そうすると。

【永松座長】 ちょっと難しいですね。

そのほかに、こういう視点を入れたほうがいいのか、こういう言葉があったほ

うがいいのではないかとか。

【藤本委員】　　どんどん膨らんでいくのですが(笑)、今回この環境アカデミアができて、いろいろな他地域からもたくさんの学生さんが訪れることを考えたり、私なども今東京から子供を連れて帰って来たりしますので、そういった意味では内外のいろいろな地域もつながります。出身者として外に出たからこそ感じるのは、水俣の人たちは閉鎖的なところがあるような気がします。もちろん今までのこの地元の移り変わりを考えると理解できますが、よそ者意識というか、そういったところが強い方が多い気がするので、そういう意識を取り払うというか、みんな遊びにおいでと開かれるようなイメージもあるといいなと思いました。

【永松座長】　　そのイメージを出すには、日ごろから開かれた交流とか、何か……。

【藤本委員】　　そうかもしれないですね。

【永松座長】　　そういう言葉を入れると、地域の外に関しても、世代間に関しても、開かれたと。

【石原委員】　　本質的には賛成なのですが、あえて心配を述べますと、結局市の計画とこの文言の位置づけ、関係性もと思うのですけれども、どこまで細かく書き込むかということがまず1点ですね。

それと、仮に「開かれた」ということを目指すときに、逆に外に開かれるがゆえに、水俣の、一般的に考えるきれいなところだけを見せていこうみたいになっていく可能性もあるのではないかと考えています。やはり水俣というのは、まだ中で相互に学び合うべき財産がある地域だと思っているので、本質は、多分言いたいことは同じなのですけれども、どうやったらほんとうの意味で開かれるというか、ほんとうに水俣が水俣のことに誇りを持って外に開かれていくのだろうかと思うときに、何という文言にしたらいいか若干悩むみたいな感じがします。本質的には賛成なんですけれども、表現に悩むというところがございます。

【永松座長】　　難しいですね。開かれた交流とあえて強調すると、開かれていないのかと。(笑) だから、それを考えると、このまま「交流」にしましょうという考え方もあるでしょうね。

今、皆さんから出たご意見の主なものをまとめれば、やはり「水俣」というのを最初に主語として持ってきたほうがいいだろうということですね。

それから、「子ども・その親世代・高齢者」という区分けの仕方を少し工夫したらどうか

と。一つの例として「子ども・大人・高齢者」という分け方でもいいのではないかということですね。

それから、下のほうの「3世代が幸せを実感しながら、みんなの健康」、この健康というのは、心と体、そして、人とのつながりも含む健康ですという形での説明ぶりがいいだろうということでした。

それから、「環境」という言葉もどこかに、水俣らしさをあらかず言葉として入れたらどうかということと、閉鎖的といいますか、そういう土地柄といいますか、僕はあまりそうは感じないですけれども、そういうこともあるので、開かれたといいますか、オープンなのをどこかしらに入れるということもあるのではないかというご意見ですね。

「水俣は」という主語での書き出しは事務局に考えていただくということよろしいでしょうか。

【植木委員】 最後に「水俣です」でもいいかもわからないですね、主語で難しければ。

【永松座長】 「未来につないでいくまち、水俣です」。

【植木委員】 それとか、「目指します」とか。要は一番エッジのきいたところに入ってほしいです。

【石原委員】 1点、済みません。水俣はたしか20年ぐらい前に、順番は忘れましたが「環境・健康・経済が両立するまち」というすばらしいコンセプトができていたと思います。水俣病の教訓を含めてですけれども、それが今で言う持続可能な社会に向けてモデル都市の先駆けになったと理解していますが、それとの関係も。別途につくってもいいですけれども、だんだんやっていくとそれに集約されていくような感じもしてしまっていて、それを超えるものをつくるのかとか、それとの関係をどう考えるのかということも参考として考えておくといいかなと思いました。

【永松座長】 経済関係とかいろいろあるのですけれども、今回はある程度ポイントを絞ろうと。それと、国水研が提言するというのもあって、健康とか、健やかに育つとか、そういった面にある程度ターゲットといいますか、レンジを絞ってつくっていくという形なので、今回はあまり経済とかほかのものは入れないほうがいいのかなと私は思っています。どうですか。

【岩橋室長】 おっしゃったように、環境・健康・経済と、第3次総合計画の中で確かにそのようになっていたかと思います。その後、これまで環境のほうは非常に重点的に実現してきたと思うのですけれども、健康のほうはあまり、もやい直しはありましたけれど

も、それ以外の点はあまり進んでこなくて今日に至っているのかなと考えています。

当時の健康が何を意味したのか、はっきりとはわからないのですけれども、今ここで取り上げた健康は、1回目のときに、子供さんたちの肥満傾向があったりとか、あるいは、その後わかったことですが、出生時に非常に体重の低い子供たちが生まれているとかですね。そういうことで、大分具体的な健康のほうに今絞られているのかなと考えています。

【石原委員】 それ自体は賛成です。

また、別のときでもいいのですけれども、その肥満が多いとかというのは、実は日本全体の傾向だと思うのですけれども、水俣の値が悪いということでしょうか。原因は何なのですかね。

【岩橋室長】 そうです。

【石原委員】 全国と同じように悪いということですかね。

【永松座長】 県内でワースト3の……、例えば透析……。

【石原委員】 大人はですね。子供の肥満というお話だったのですが。

【永松座長】 子供の肥満。

【石原委員】 子供の肥満は、実は女の子の若い子は痩せ、男の子供は肥満が問題というのは日本全国の特徴なんですよね。それが水俣独自のなかかどうかという。

【岩橋室長】 独自というか、県内でも特に上のほうだったという値が水俣市の健康増進計画に載ってまして、その紹介が1回目のときにありましたので。

【石原委員】 ありました。しかし、全国の順位は出してなかったんですよ。

【岩橋室長】 全国の順位はなかったと思います。

【石原委員】 ですね。私ももともと公衆衛生とか医療政策が専門なのですが、もし健康のことでほんとうにやるのであれば、そのくらいはきちんと調べたほうがいいかなと、感じます。

【望月所長】 現状の分析報告書において、まず現状から始め、こうすべきというように整理したいと思っております。

【石原委員】 そうですね。

【永松座長】 それでは、決められるところだけは決めたいのですが、先ほど言いましたように、冒頭か最後に「水俣」という言葉を入れるということは皆さんご了解いただけたと思います。

その次、「子ども・その親世代・高齢者」ですけれども、これは「子ども・大人・高齢者」でよろしいですか。大人の中に高齢者も入るといえば入るのですけれども。

【望月所長】　　ここら辺はちょっと微妙で、事務局としてもどう表現すればいいかと、悩んだところですよ。

【永松座長】　　それか、「3世代」というふうにしちゃうか。

【藤本委員】　　このワードを三つ並べるのは、3世代を意識するような形で三つということなんですよ。

【永松座長】　　3世代を説明する言葉としてこれを書いてありますけれども、普通、子供、親、じいちゃん、ばあちゃんという、それが3世代のもともとの意味だと思います。ただ、説明では胎児のお話もされたので、正確に言うと、これだけではない。「3世代」とまとめちゃったらだめなんですか。

【岩橋室長】　　あえて説明をせずにとということでしょうか。

【永松座長】　　そうですね。やっぱり3世代って、先ほど言ったように、子、親、祖父母というふうには書けばいいのですけれども、それ以外の意味も3世代には含まれているんですよ。

【石原委員】　　「子ども・大人・高齢者」と書いて、高齢者は大人じゃないのかという意見を言う人はどのくらい出るかと考えると、ある程度理解いただけるのではないかと思います。うちはしないでもないですが。

【永松座長】　　そうですね。だから、後ろのほうの説明のところに、「本文でいう——」と、言いわけ文ではないですけれども解説文を書いておくとか。

【藤本委員】　　補足の枠が、もしかしたらほかのことも要るかもしれないので。

【望月所長】　　本日の資料4で、用語の説明というのが出てきますけれども、それがこの中でいう言葉の定義になります。そこが補足説明という形です。やはり読んでいて意味が、同じ言葉でも随分受け取り方が違うということがあると思いますので、同じ場所に立っていただくということで整理してみたものです。

【永松座長】　　それでは、このとおりか、「子ども・大人」という形にするか、ちょっと事務局で考えてもらって。いずれにしても、後ろの用語の説明のところで補足書きを入れてもらうという形で、事務局でどちらにするかを検討してもらいたいと思います。それで、その分はよろしいでしょうか。

【植木委員】　　結構「その親世代」というのは考えられた言葉なんですよ。

【望月所長】 どううまくあらわすかというところで考えました。

【植木委員】 「その親世代」と言われると子供とすぐつながるし、高齢者になると、子育ても終わって単体で世帯として独立しているという感じもするから。

【望月所長】 そうなんですね。

【永松座長】 まあ、あまり厳密に考えなくていいかという観点から言えば、これでも。

【植木委員】 文章の組み立てできれいに直るでしょう。

【永松座長】 はい。

【石原委員】 趣旨としては、前回も言ったんですけれども、例えば子供を持たない成人、そういう人もいますし、さまざまな生き方がある中で、「その親世代」と言ったときに、世代だから親でなくてもいいんだよということではあるんですが、大人であることの意味を親ということに中心的に置かれ過ぎている感じがしているんですね。なので、あえて親であるということを強調するのであればこれでいいと思うんですけれども、そうではない成人、成年の社会的役割みたいなことも考えるのであれば、大人のほうが中立的な言葉遣いなのではないかというのが発言の趣旨です。

【植木委員】 先生がおっしゃる意味はよくわかるんですけれども、私は、あえて水俣に生活する人たちは、3世代にわたる子育てを楽しみながら、そういうような生活を送ってほしいというのが底辺にメッセージとしてあってもいいのではないかなと。やっぱり人口減という問題も出てきますので。確かに、独身で子供を持っていない方たちもいますけれども。それもあるんだけど、全員が納得する文章というのは、芸術で言ったら傑作にならないわけですよ。やっぱり多少そこにフォーカスされていても、意図としてはそれがあっていいのではないかなという気はします。私の個人的な意見ですよ。

【石原委員】 ですから、そこをどういう意図で使っているのかを覚悟した上で使ったほうがいいのではないのでしょうかということですね。

【永松座長】 多分これは年齢層で分けてあるんでしょう。

【岩橋室長】 前回のときは、そこを保護者としておりました、保護者だとやっぱりどうしても役割があるということで、世代とはちょっと違うというご意見が出ました。それで、今回、3世代の中の一つの世代をあらわす用語で「その親世代」を使いました。「親」という漢字は1文字入ってはいるのですけれども、「その世代」ですので、そして、資料4のほうにも書いておられますとおり、年齢を成壮年期の19歳から39歳と中年期の40歳から64歳ということで、年代のほうを重視した結果がこれです。

【植木委員】　　こんなのどうですか、「子ども・その世代、そして大人・高齢者」折衷案で。(笑)

【永松座長】　　ここは言葉の注釈があるから、いずれにしろそれで補う形にしないといけないのかなとは思っていますけれども。

では、ここは事務局のほうで再度検討いただきたいと思います。

それから、その次ですが、「日頃から交流を重ねて」という、そこに「開かれた」を入れるかどうかですけれども、交流そのものに開かれた意味、開かれないと交流ができないということがあるので、とりあえずはこのとおりの「日頃から交流を重ねて」という形ではどうかと思っています。

もう一つは、先ほど私が言いました「子どもと親世代がすこやかに成長し、高齢者の生活がいきいきと充実」、これはよろしいでしょうか。どこまでこだわるかの話ですけれども。

【藤本委員】　　済みません、先ほどの「開かれた」のところで、「開く」という言葉を使わないとしたときに、例えば「日頃から交流を重ねる」というのを、これを広げるというようなニュアンスでしたらどうでしょうか。「交流が広がる」と。要は、それが実は開いていくというようなところにつながるのですけれども。今の段階が開いてないのかどうかという議論にはならなくて、さらに広がっていくという。

【永松座長】　　そうすると「日頃から」がつながらなくなりませんか。

【藤本委員】　　確かにそうですね。

【岩橋室長】　　ここはなるべくエリアというよりも回数の方を重視して、「日頃から重ねる」と。「開く」のほうですと、地域の中と外とかというニュアンスのほうかなと思うんですけれども。

【永松座長】　　多分「開かれた」という言葉の意味は、前の「多種多様に設けられ」という中に入るのかもしれませんがね。「交流の場が多種多様に設けられる」という、ここで読もうと思えば読めるような気はします。小さい域内の水俣の町内の場合もあるだろうし、県内、あるいは国際的なものもあるだろうし、いろいろな多種多様な交流という、そこで読めるような気はしますけれども。

よろしいですかね。とりあえず一通り、もしどうしてもというのであれば、また次の機会にまた議論したいと思います。

それでは、あとは、先ほど牧迫委員が言われた「みんなの健康」の後の括弧書きですけれども、牧迫委員が言われたような形でよろしいでしょうか。「こころやからだ、人とのつ

ながり」と平仮名で書くということですがけれども。

【石原委員】 「(こころやからだ、人とのつながり)」になるということでしょうか。

【永松座長】 そうです。

【石原委員】 牧迫先生、申しわけありません、私は「社会的な健康」のほうがいいのですが。

【牧迫委員】 それが何を指すのかが皆様がわかればいいかなと思ったのですがけれども。

【石原委員】 まあそうですね。

【牧迫委員】 それが今回の活動を意味するということと直結するといいいのかなと。あと、全体の雰囲気、私の意見としてですがけれども、かたさだとか、そのあたりも含めてですね。まあ、意見ですので。

【永松座長】 「社会的な健康」って、例えば例示的に挙げるとどんなものですか。

【石原委員】 多分WHOが言っているのは、貧困とか差別とか戦争がない、暴力など犯罪がないというはっきりした定義があるんですね。私が思っているのは、国水研の仕事ですし、水俣という特性を考えると、水俣病の教訓も当然考えて、そこから派生している、いまだにある地域の分断などに向かっていくという、それに取り組んでいくということも含んだほうがいいだろうなと思っています。「社会的な健康」ということによって、貧困とか差別とか、そういうこともなくしましょうということも含まれているので、「人とのつながり」と言ってしまっ、それで全部言い切れるといいいのですが、そこが含まれないともったいないかなという意見だったのですが、わかりやすさという意味では確かに、「社会的健康」って何だかわからないだろうなというのはよくわかります。

明確にWHOの言っていることの意味で、このままというのがもともとの私のイメージではありました。

【望月所長】 おっしゃるとおりで、ここのところはWHOの健康の定義をベースにしているところです。その解釈は、またいろいろ出てくると思うのですがけれども、なかなか「健康」で、括弧書きにどう入れるか、やはり難しく結局は定義をベースにしたということがあります。

【岩橋室長】 そうですね。資料4の定義のほうでは、WHOからそのまま健康の定義は引いてきていますので、あとは、こちらのコンセプトのほうにあらわすときに、この括弧の中にどういうふうにあらわすか、という問題だと思います。

【石原委員】 「社会的健康」がいいのではないかと考えています、私は。

【永松座長】 このWHOだと、社会的にも全てが満たされたというのは、先ほど貧困とありましたけれども、それは経済的な問題ですよ。今その話を聞くと、人間の精神的な部分ではなくて、社会システムの健康度みたいな定義なのかなと思って聞いていたんですけれども。

【石原委員】 二つの意味があると思います。望月先生や牧迫先生がお詳しいと思いますが、身体・精神の健康に与える社会的な状況を指しているという第一の意味と、第二の意味としては社会自体のヘルシーさ、両方をWHOが言っていると思います。

【永松座長】 後者まで言えるかどうかですよ。ここでは入ってないですよ、この解説では。

【石原委員】 入っていますね、今。

【永松座長】 社会的に全てが満たされたというのがどういう意味なのか、ちょっとよくわからないですが。

【岩橋室長】 今のコンセプトですと、社会の経済的な状況とか社会システムというのはなかなか捉え切れないのかなと。気持ちとかはここでよく出ていると思うんですけども。

【牧迫委員】 補足がつくのであれば、特にコンセプトの中に括弧書きは必要ですか。「みんなの健康をより良く」というので。そして、ここでいう「健康」というのはこういうことも含みますみたいなのが後でつくのであればいいかなという気もしますけれども。あまりコンセプトが長いのもどうかなという気がします。あえてあったほうがいいですか。

【石原委員】 私個人としては、この括弧の中があること、「社会的な健康」を入れたことを高く評価はしているんですよ。というのは、水俣の特性ということ考えた場合に、ほかと違うところは、単に健康の値が悪いというだけではなく、社会的な関係性、社会的な健康の問題というのが典型的にあらわれた地域ですし、国水研からの発信としては大変意味のあるものではないかと。住民が今すぐに意味がわからなくても、これ何だろうねというところで対話が始まる、交流が始まるところに意味があるのかなという意味では高く評価しております。

【永松座長】 ここでは三つの健康にしてありますけれども、専門的な分け方として、普通、心と体と社会という三つの三分法の分け方ですか。

【石原委員】 そうです。3か4ですね。

【永松座長】 4は。

【石原委員】 4の場合、スピリチュアルヘルスが入ります。でも、日本人にはよくわからないので。

【永松座長】 スピリチュアルヘルスとは。

【石原委員】 フィジカル、メンタル、ソーシャル、アンド、スピリチュアルヘルスというのがWHOの……。

【永松座長】 スピリチュアルとは日本語でいうと。

【石原委員】 それが訳せないんですよね、望月先生。

【望月所長】 霊的というか、そんなもので。

【石原委員】 変だなということ。

【望月所長】 最初は三つだったんですけれども、ある時期、スピリチュアルが提案されました。そういう歴史はありますけれども、なかなか日本人はスピリチュアルなところはぴんとこないところがあります。ソーシャルまではまだ、システムの問題の不十分さとかそういうことで理解できますが。

【永松座長】 それは、スピリチュアルは入れないほうがいいと思います。

【石原委員】 そうですね、置いといていいと思います。

【植木委員】 宗教観の世界観が違うからね。

【永松座長】 あと、専門用語の健康の訳は。

【石原委員】 ヘルスですね。

【藤本委員】 これは中学校の教科書に出ています。我々の時代、テストでも出ていました。

【永松座長】 何の？

【藤本委員】 保健体育の教科書ですね。「健康」とは何かを書きなさいという問題が中学校のときに保健体育のテストで出ていました。中学生のお子さんならわかっているはずです。

【永松座長】 というのが、「みんなの健康」の解説文が括弧に書いてあって、「みんな」と書いてあるんですけれども、内訳が「心と体と社会的な」と。

【牧迫委員】 この三つの訳は一般的なんですか。

【石原委員】 心と、体・身体、精神……。

【牧迫委員】 「身体的、精神的、社会的な」はわかるんですが、「心と体と社会的」というのは、日本語的に変な気がするんですけれども。もし、そこにどうしてもというので

あれば、僕は「身体的、精神的、社会的」にしちゃったほうが、むしろ。もっとわかりづ
らい気がしちゃうんですけれども。

【永松座長】 身体だと心も入らないですかね。肉体と精神はわかるんですが、身体は
体じゃないですか。精神活動って脳の中で行われるから。

【石原委員】 深い議論ですね、それはある意味で。

【望月所長】 そこはあまり厳に分けているかどうか。要するに体のぐあいが悪い、そ
れだけではなくて、心の問題もありますよと。それだけではなくて、社会的な問題もあり
ますよという形です。一般的に考えた場合、やっぱり身体的、精神的、社会的というのは
三つの並びで、牧迫先生がおっしゃったとおりにかと思えます。ただ、ちょっとかたくなっ
てしまうんです。

【永松座長】 そうですね。

【望月所長】 あえて「心や体」と入れたのは、そこら辺を少しやわらかめにと
いう意図がありました。中途半端にやるとかえって混乱するということであれば、例えば公的な
機関がきちんと訳したものをそのまま持ってくるのが一番誤解は少なくなると思
います。

【永松座長】 それでは、時間もちょっと過ぎていきますので、とりあえず、「社会的な健
康」というのは、いろいろ聞くと深い意味があるということです。ただ、「社会的な健康」
って何か説明文にありましたっけ。

【望月所長】 そこについては、WHOの訳をつけていて、詳細の説明はこの中には入
ってないです。ですから、そこは誤解が生じないように、もうちょっと「社会的には」と
いうのに解説をつける必要があるかもしれません。

【永松座長】 そうですね。牧迫委員が言われたのは、「社会的な健康」というのはわか
りにくいのではないかという趣旨だと思うんですよね。

【牧迫委員】 それと、「こころ、からだ」というのと全体のコンセプトの雰囲気を考え
ると、そっちでもいいのではないかという一つの意見です。ほかに、裏にある意図まで含
めて、それを統制してという意味であれば、もうむしろ「身体、精神、社会」とやっちゃ
ったほうがいいのではないかなということです。

【永松座長】 バランス的、語感といいますかね。

【牧迫委員】 そうですね。

【永松座長】 わかりました。どちらにするかは、基本的にはこれを活かしつつ、この
場合には「社会的な健康って何」という人がいると思うので、補足説明を別のところでつ

けるという形で、事務局のほうで整理させていただきたいと思います。

それでは、とりあえずこれでよろしいですか。

では、次に行きます。

【望月所長】 1点だけよろしいですか。

ちょっと長いという話があったんですけども、これまでのご意見だとなかなか削る方向に行かなかったみたいなので、二つの文章にするという形で、大きく目的を書いて、その方法論として「交流を重ねる」などがあがると思います。それから、「美しい環境のもとで」、「水俣」というところで、コンセプトを二つぐらいの文章に分けた形でまとめるという、そんなイメージでよろしゅうございますか。

【永松座長】 そうですね。分けられれば分けていただくと。

【望月所長】 これは1文で行くには結構きついかなど。

【永松座長】 これは簡単には分けられないようになっているので、一番最後に「何とかのまち水俣」と体言どめにしてもらおうとか、可能であれば簡潔に2行でぱっと書いてもらうということで、事務局にお願いするということがよろしいでしょうか。

【望月所長】 わかりました。では、1文にするか2文にするかは、また検討いたします。

【石原委員】 何度も申しわけございません。この前言った件ですが、「美しい」という趣旨を、例えば「命育む環境」とかのほうがいいのではないかということ先週申し上げたのですが、それも考慮いただけるとよろしいかなと、大変幸いに思います。

【永松座長】 「命育む」ですか。

【石原委員】 はい。「美しい」ということに対して、いろいろな見解の違いなどもあるかもしれない中で、「命育む環境のまち」とかいうような言い方もあるのかなということこの前言ったのですが。

【望月所長】 そこら辺は非常に難しいところで、どう表現するかと。非常にきれいなところなので、素直に「美しい」という言葉を持ってきたんですけども、やはりそれはなかなか微妙なところでしょうか。

【藤本委員】 人によってというか、捉え方によっては……。

【石原委員】 私が言ったわけではないですが、そのような意見は結構聞きます。

【望月所長】 例えば説明をつけたのでは足らなくて、「美しい」という言葉を使うこと自体が、リスクーなところがあると考えてよろしいでしょうか。

【藤本委員】　そうですね。もう美しくなってしまったのかということですね。昔の水俣を知っている人にとっては、あの頃のように元通りに美しくなったわけではない（それくらい水俣は今以上に美しかったというお気持ちですが）という捉え方もあるかなというふうに思います。

【永松座長】　それはあると思います。「美しい水俣」ということに関して、「いや、まだ残っている」というのもおかしいんですけども、実際に除去したのではなくて、上に乗せているだけですから。だから、「美しい水俣をつくる」と言うならいいと思うんですけども。

【藤本委員】　はい、そうです。目標に置くような形だといいと思うのですが。

【永松座長】　目標とすればいいと思うのですが、「美しい環境を守ろう」とか、そういう形になると、ちょっと。

【藤本委員】　そうですね。

【石原委員】　話を伺っていると、言ってみれば「3世代の命を健やかに育む環境」みたいなことですね、多分先生方の話というのは。そういうふうに伺っていたのですが。

【望月所長】　環境の書き方は、いま一度検討いたします。

【石原委員】　そうですね、済みません、お願いいたします。

【永松座長】　環境って要るのかなと思いますけれどもね。

【望月所長】　今回、健康をベースにしている、テーマは「3世代育み健やかタウン」ですけれども、「水俣」という言葉がないということで、サブタイトルみたいなものもあってもいいのではないかと考えました。それが一つ上の3ページの話になりまして、サブタイトルの「水俣」が打ち出せるような言葉がないかと。その中に、環境的な言葉も入れていったらどうかということです。最初の回で出ました「美健」とかそういうところですけども、そんなこともあるかなと。こういう状況ですというのをサブタイトルに入れて、出していったらどうかというのが、この3ページ、4ページの基本的な構成です。

ですから、コンセプトの中とかに、やはり環境を入れたほうがしっくりくるのであれば、もちろんそういうふうに文章的に工夫したいと思います。

岩橋さん、何か。

【岩橋室長】　では、ネーミングのほうに。

【永松座長】　では、次にネーミングのほうをお願いします。

【岩橋室長】　では、資料3の3コマ目をござんいただきますと、「(仮称)3世代育み

健やかタウン」と書いておりました、サブタイトルの案を入れております。

先ほどの「美しい」につきましては、前回石原委員からご意見をいただいておりますので、そこは承知をしているつもりです。その一方で、水俣市さんは、環境モデル都市や日本の環境首都になっているという事実があります。また、水銀に関する水俣条約というものもありまして、この「水俣」という地名が世界である程度共有される一つの地名になったと考えております。

ということで、環境のまちであることは、多分間違いないと思っております、そういう世界に共有される地名となった、そういう取り組みをしていることがわかるようなネーミングにしたいなど。単に、日本の端っこのほうの健康なまちというだけではなくて、世界に対して「水俣」というのを発信するときにも役立つように、「ああそうか、水俣という場所は、ダメージを受けた海とかもある程度回復したし、その後、実はダメージを受けた人の健康のほうもよりよくしているんだな」「そういう取り組みをやったのか、そして成果を出したのか」と、そういったことがずっと伝わっていくようなネーミングにしたいと思っております。

それで、前回は「3世代育みタウン」という短いネーミングだったのですが、それだけですと、何を育てているのか伝わりにくいということで、今回、この「健やか」という3文字を入れたわけです。

そして、それだけですと今度は、それほどこのまちの取り組みなのかわからないものですから、サブタイトル案のほうに。一つ目は「美健のまちみなまた」ということで、植木委員から最初にいただいた「美と健康のまち」で合わせて「美健」というアイデア、それに「みなまた」というのをくっつけたものです。サブタイトル案の二つ目は、先ほどのコンセプトの中で「健やか」と「いきいき」というのが二つありまして、「健やか」はメインのタイトルに入っておりますので、もう一つの「いきいき」をサブタイトルのほうに入れて、それと「みなまた」をくっつけたという案です。

以上です。

【永松座長】 これをもとに議論をすればいいですね。

【岩橋室長】 はい。

【永松座長】 まず、このタイトルですけれども、「3世代育み健やかタウン」というのはいかがでしょうか。これ以上入ると長過ぎる。(笑)

【望月所長】 今、コンセプトについてご議論いただきましたので、それをうまく言い

あらわしているか、ご意見をいただけたらと思っております。

【永松座長】 あんまりほかのところで使ってない言葉なので……。

【石原委員】 「健やか」と「育み」の位置を変えるともっといいかなと個人的には思いました。と申しますのが、まず「3世代育み」が非常に珍しくてとてもいいと思ったんですが、「健やかタウン」というふうに言うと、健やかになろうという状態を指している、もしくは健やかであるという状態を指しているんですけども、そうすると、こういう標語をつくる時にしばしば議論される大事な点として、「健やかじゃなきゃ行けないのか」というプレッシャーを感じる」という意見も出ます。そういう中で、「健やかさを育む」というところであれば、より状態ではなくて行動を指す、方向性を指すので、それも一ついいかなと。「3世代健康育みタウン」とかになるんでしょうか。何を育む、育んで健やかなタウンではなくて、健康を育むタウンというように順番を入れかえてはいかがかと思いました。

あと、水俣の特性を考えると、「健康」でもいいのですけれども、「3世代命育みタウン」みたいなものも水俣らしさというのは出るのかなと個人的には思います。健やかさが損なわれたけれども、それでもなお命を育んできたという、非常に水俣らしい言葉がよくあると思うんですが。後半は一意見です、済みません。

【永松座長】 どうですか、「育み」と「健やか」をひっくり返すのとひっくり返さないのは。まあ、語呂というか。健やかに育むという解釈、とり方をするか、育んだ結果として健やかなタウンになると。

【植木委員】 私は現状でいいと思います、原案で。

【牧迫委員】 趣旨としてはそっちのほうが近いような。ただ、今ちらっと見ると、言葉的には「健やか育み」のほうがやっぱり多いのは多いそうです。逆にしたほうが、条例とかに使われている言葉の流れとして、よく使われていそうです。

【石原委員】 そうですか。

【牧迫委員】 ただ、今回の趣旨は「3世代を育む」というのが何となく主なのかなという印象がありますので、私は現状でもいいかなというのが一つの意見ですが、どうなんでしょうか。難しいですね。

【永松座長】 藤本委員、いかがでしょうか。

【藤本委員】 どちらでもいいかなというのが一つと、「タウン」がすごく都市をイメージしてしまって……。

【永松座長】 平仮名にしますか。

【藤本委員】 もうちょっと何か。ふるさとみたいな、もうちょっと、片仮名ではない……。

【石原委員】 「まち」みたいな。

【藤本委員】 何かそういう、もう少し現代っぽくないほうがあえていいかなと。それから、先生がおっしゃっていた「命」は、実は逆にすごく重たいなと私は感じるので、「命」はあえて地元の人はいれないほうが。メインに入れてしまうと、重みがあり過ぎるような気がして。

【永松座長】 育むのは、命もそうですけれども、いろいろなものを育むということも。交流を育んだりとか、いろいろな種類のことを育むということなので。「命」となると「命」に限定されるような気がしちゃうんですね。

【藤本委員】 そうですね。やはり水俣病で命を落とされた方のこととか差別とか、ずっと小さいときから見聞きをしてきたので、その重みがすごくわかるがゆえに、あえてメインに出てくるとちょっと……というのがあります。

【永松座長】 では、これ多数決にします？ 多数決しても人数が少ないから多数決になりませんが。

【植木委員】 シティというほどではないしね。タウン……。

【永松座長】 「育み健やか」にするか「健やか育み」にするかというのは、僕から見ると並列に書いてあって、ひっくり返してもあまり意味は変わらないように思えるので、読みやすいほうにしたほうがいいのかと思います。

それと、「タウン」が都会的過ぎると。

【藤本委員】 過ぎるというわけではないですが。(笑)

【永松座長】 ビレッジにしますか。(笑)

【植木委員】 要するに「分譲タウン」みたいな感じがするということでしょう。

【藤本委員】 はい。

【植木委員】 それは確かにね、分譲地みたい。

【永松座長】 ほかに何かありますかね。

【藤本委員】 でも、こだわりはそこまではないです。

【植木委員】 ほかに形容がないからね、シティとか。「むら」ではおかしいし。

【永松座長】 シティのほうがハイカラですよ。

【植木委員】 「むら」じゃいけないでしょう。

【望月所長】 水俣市ですからシティはうそではないんですけども。

【植木委員】 「健やかむら」じゃおかしいしね。

【永松座長】 おかしいですね。

【植木委員】 市でもおかしいし。まあタウンで。

【藤本委員】 そうですね。

【永松座長】 シティよりもタウンのほうが小さいですから、これはこれでよろしいということでもよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

【永松座長】 では、ここはどちらにされますか。個人的には読みやすさは「育み健やか」というのが読みやすいんですけども、「健やか育みタウン」と。

【石原委員】 前に持ってくるのであれば「健やか育み」だと変ですよ。ね。「3世代健康育みタウン」とかですかね。意味はわかるのですが、ぱっと読んだ人が「3世代が育み、健やかタウン」とも読めるんですね。「健やかタウン」と言ったときに、あえて言いますが、残念ながら水俣は健やかではない状態を生み出してしまった。障害を持っていても健やかに生きるという考えがもちろんありますが、一般にいうところの「健やか」というところで覆ってしまって、水俣の本質が描けているのかなという疑問が自分の中で湧いてきたということなんですよ。答えはありません、済みません。

【植木委員】 それはサブタイトルとの関連でも訴求できると思いますけどね。

【永松座長】 いや、これは今回のこれからの新しい水俣をどうつくるかというので、将来の水俣のビジョンといいますか、将来像を見ながら、それに合う言葉を当てはめるといことですので。だから、確かに現状では健やかではない、水俣病も全部解決してないので、そういう問題はありますが、それは今の話で、今回ののは、明日の水俣の絵、理想的な目指すべき将来像をあらわす言葉で、要するに目指す目的地なので、これはこれでいいと私は思います。

おそらく石原委員の話というのは、多分この後ろのほうで、これまでの背景とか現状とか、そこら辺で認識すべき事柄として出てくるのを踏まえて、明日の水俣をどうつくるかという話だと思います。

【石原委員】 そうですね。まあよろしいのですが、済みません、水俣に住んで、水俣の価値というのは多様だなど。まだ言葉にできていないんですけども、健やかではなく

でもいいのではないかみたいなことも含めて、弱くてもいいのではないかとか、弱者に優しいまちとか、そういうところも水俣の価値として出てきていると思うんですね。そういうところが「健やかタウン」という言葉で、私たちは全て含まれているとわかっているんですけども、普通にぱっと見て、健やかでなくてもいいのではないか、弱くてもいいのではないかみたいなところ、そういうのをどう表現したらいいのだろうかという悩みがあったのですが、まだ答えが出ておりませんので結構です。

私は「3世代育みタウン」で十分よかったです、済みません。

【永松座長】　　ここら辺になると、どこかで折り合いをつける必要がありますし、まだ今日は何人か欠席されている委員の皆様がおられますので、今日はある程度、若干一言あるということも含めて、この「3世代育み健やかタウン」ということで一応進めていくということだけで了解いただけますか。

(「異議なし」の声あり)

【永松座長】　　それから、その下です。サブタイトルをつけるかつけないかというのがあるのですが、つけたほうがわかりやすいと思います。

ここに二つありますけれども、この二つをもとにして考えるということですかね。

【岩橋室長】　　そうですね。

【永松座長】　　いかがでしょうか。

「美健のまちみなまた」をつけると、「健やか」とダブるということになるんですね。ダブリが出てきますよね。

【藤本委員】　　ちょっと議論がずれるかもしれないですけども、友人がいくつかサブタイトルみたいなものをつくってくれたのですが、その一つでご紹介したいものがあります。「みなまた、みんなまちのたから」というものです。実は「みなまた」の頭文字をとっているのですが、まち全体のみんな、一人一人が宝物だよというような。

【永松座長】　　みなまた……。

【藤本委員】　　はい。「みんなまちのたから」という言葉をもたらしてきたことをお話を伺いながら今思い出しました。

【石原委員】　　いいですね、すてきですね。

【藤本委員】　　弱い人も強い人も、子供も大人も、みんなこのまちの宝物だという「みんなまちのたから」で「みなまた」という。

【岩橋室長】　　書いたらどうなりますか。「みんなまちのたから」になるんですか。

【永松座長】 平仮名ですよ。

【藤本委員】 はい。「みなまた、みんなまちのたから」と。

【永松座長】 なるほど。

【藤本委員】 サブタイトルというよりは、ちょっとキャッチフレーズ的な感じなのですけれども。

【永松座長】 これもいいですね。

【石原委員】 いいですね。

【永松座長】 大人も子供も、水俣にあるものはみんな宝物ですということですよ。

「水俣」が入らないですね。

【牧迫委員】 ここに入っているということですよ。

【藤本委員】 そう、全部入っているんです。

【永松座長】 あ、そうか。最初に「みなまた」がつくんですね。

【藤本委員】 はい。「みなまた、みんなまちのたから」、「み・な・ま・た」です。

【石原委員】 「みなまた」はつかなくてもいいんですよ。だから「み・な・ま・た」の頭文字をとって「みんなまちのたから」で、縦に読むと「みなまた」ということですよ。最近はやっていますし、とてもすてきだと思います。

【永松座長】 ということは、これだと横でしょう。横で「み・な・ま・た」をして、下に書くんですか。

【石原委員】 書き方は苦しいですね。

【藤本委員】 書き方は、多分そのほうがわかりやすいですけれども。あいうえお作文みたいな感じですが……。

【永松座長】 第3案が出ましたが、これも入れていいですか。

【岩橋室長】 はい。

【藤本委員】 議論の進め方から少しそれるので、もう少し前に言うべきだったなとは思いましたが。でも、言葉として、みんな宝物だ、みんな大事にしていく、つながっていくというのはすごくいいなと思いましたので。

どこかにキーワード、キャッチフレーズとして入れるのかということまではちょっと具体案がありませんが……。

【永松座長】 では、委員の皆さんに。二つ出っていて、今一つ出ましたので、二つプラス一つの中で、植木委員はどうですか。

【植木委員】 今の「みんなまちのたから」はいいと思いますよ。

【永松座長】 よろしいですか。

【植木委員】 キャッチフレーズ的にはね。

【永松座長】 上に二つ「美健のまちみなまた」「いきいきみなまた」と「みんなまちのたから」。

【植木委員】 自分としては「美健」というキーワードを出しているのですが、使えるものだったら、それはいいかもわかりませんが。さっき見てみましたけれども、商標登録はまだされてないようなので。

【永松座長】 牧迫委員、いかがですか。

【牧迫委員】 そうですね、私の意見は、「みんなまちのたから」で「3世代育み健やかタウン」、もしくは「美健のまちみなまた」の場合は「健やか」を外してもいいかなと思っています、「3世代育みタウン」。

【永松座長】 どうですか。

【岩橋室長】 これをサブタイトルにするのだったら、ここの「健やか」の3文字を外して「3世代育みタウン」と。

【永松座長】 多分そうですね。「みんなまちのたから」を使う場合には……。

【牧迫委員】 使う場合は、このまま「健やか」も残していいかなと思っています。

【永松座長】 そうですね。

【牧迫委員】 いずれかでしょうから。

【永松座長】 困りましたね、これ。一つは、今言われたみたいに、「美健のまちみなまた」をサブタイトルにする場合には、「健やか」というのがダブるので、「3世代育みタウン」「美健のまちみなまた」ということですね。

【牧迫委員】 はい、私の意見は。

【永松座長】 ですよ。それで、この「3世代育み健やかタウン」をそのまま使うときには「みんなまちのたから」と。いかがでしょうか。

【望月所長】 かなり切り口もそれぞれありまして、どちらがいいというのはなかなか難しいですね。

【永松座長】 それでは、時間もないので、今日はその二つの案のいずれかに決めるということでよろしいでしょうか。

やっぱり我々だけではなくて、国水研の職員の方々とか、少し多くの人に見てもらって、

第三者の目で見ても、こちらのほうが良いというのに決めたほうが良いと思うんですよ。我々のほうで最終的に決められれば一番いいんですけども、四、五人で決めてしまうというのちょっと問題がありますので、国水研の職員の方の意見を聞いて、多いほうをこの次のときに報告してもらおうと。やっぱり賛同者が少ないより多いほうが良いので、その他の第三者の、普通の水俣の方の意見を聞いた上で決めることでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【永松座長】 次は、今度は資料の5をお願いします。岩橋室長のほうから説明がありますけれども、ご検討いただきたいのが、資料5の3のところの上のほうに「10年先めざす地域社会像・標語」と書いてございます。ここについての説明を岩橋室長からしていただいた後で、皆さんのご意見をいただきたいと思います。

【岩橋室長】 資料の5です。コンセプトやネーミングのサブタイトルは決まりませんでした。それを踏まえていただいて、目指す地域社会像の標語の決定に向けて議論をしていただきたいと思います。

この標語ですが、今お手元に配りました水俣市の総合計画の中に、一番上位の概念といたしまして、下のほうに青い文字で書いてあります「目指す将来像」というものがあります。今の目指す将来像は、「人が行きかい、ぬくもりと活力ある環境モデル都市みなまた」です。これに匹敵するような簡潔な標語というものをつくりたいと考えております。

今まで議論していただきましたのは、3コマ目の大きい矢印があるポンチ絵を見ていただきますと、一足飛びに星印の10年先のめざす地域社会像ができればいいのですが、これはなかなか議論してもそんなにぱっとはできませんので、この研究会では、まず、その方向性というものを前回決めていただいたわけ。方向性といたしまして、「3世代育む健康なまち」というのが前回決まりましたので、それをもっと具体化するために今日は、そのコンセプトというものを先ほどまで議論していただいたわけ。

先ほどありましたとおり、過去のいろいろな問題もあるのですが、そこだけにとどまっても未来が開けていかないということで、過去は過去なりに、忘れずに、そこを踏まえて、10年ぐらい先を決めていきましょう、考えていきましょう、ということをおこなうわけ。

もう一つ、3コマ目の右下に「広域的視点」とありますように、この水俣市内のことだけを考えるのではなくて、周辺の市や町とも一緒に暮らしているわけですので、いわゆる水俣地域と言われておりますように、いろいろな問題によって地域のとり方はさまざま

と思うのですが、もうちょっと広いエリアで、時間としても10年ぐらい先、この二つをもって、地域創生ビジョンの研究会ですので、地域創生のビジョンというものを考えていきましょうというわけです。

4コマ目に行きまして、めざす地域社会像の標語の案として考えましたが、この二つであります。

まず一つ目の「内向け」と書いているところですが、「住民が、世代を超えた健康まちづくりを拡充し、美健のまちとしての歴史をつくっている姿」としております。これは3世代ということで、世代を超えた健康なまちづくりを拡充ですので、自分たちで広めていったり深めていったりする、そして、美と健康のまちとしての歴史をつくっているということです。もともとは水俣病でいろいろなダメージを受けて、被害的な立場にあったと思うのですが、それだけではなくて、これからは自分たちのまちを自分たちでつくっていくんだと、そういう思いをここに入れております。

そして二つ目、「外向け」と書いておりますが、ここは「まちが」ということで、わかりやすく言うと、市であったり、隣の町であったりするわけですが、そういう市や町の行政が、美健のまちの魅力とその実現までの過程を国内外に伝えている姿、そういったものを目指すイメージ像として、今二つ上げております。

それで、5コマ目に行きまして、この標語についてご意見をいただきたいということです。まず、標語はこの二つの視点でよいかどうか、そして二つ目に、「美健のまち」、美しい環境と健康のまちというものに関して、ほかにも考慮すべきまちの像があるのかなのか、そして、「美健」という言葉以外の言葉があるのかどうか、こういった切り口でご意見をいただければと考えているところです。

以上です。

【永松座長】 ちょっと私のほうから。先ほどまで議論した標語とここの標語の違いが、多分委員の方にはわかりづらいのではないかと思いますので。

【望月所長】 今まで議論いただいてきたのは、ある意味では「健康」ということを一つの切り口にしていました。ただ、それを育んで実現していった場合に、10年後にどういうふうなこの水俣地区の像があるか、どういうふうなことが達成できるかと、それを思い描く形で言葉にできないかということです。要するに「3世代を育む健康なまち」が一つの目的でもあるんですけども、一つの手段みたいなもので、それを達成したときに、水俣というところがどんなまちになっていくのだろうか、そこまで考えておくべきかなと。

そういうところで、今回、この最後の資料5については、「めざす地域社会像」はどういうものがあるだろうかということで、将来像のイメージを、またあわせて作成していきたいと考えております。

今回は、ざっくばらんなどころではありますけれども、達成したときにどういうふうな水俣地域の像というのがイメージできるのかと、そこのご意見をお願いいたします。

岩橋室長から追加はありますか。

【岩橋室長】 いえ、特にありません。

【永松座長】 何かご意見はございますか。

【望月所長】 それで、標語的に考えましたのが、集って、健康づくりに努めた結果、内向け、水俣の住民の方々に対しては、世代を超えた健康まちづくりを拡充して行って、美健のまちとして歴史をつくっている姿というのがその先の像であると。それから、外向け、国内外にいろいろと発信という意味では、美健のまちの魅力と実現までの過程、こういうふうにして我々は健やかなまちづくりを達成できたんだということを外向きに言えているという姿、こういうものを最終的な10年後の目標という形で置いていくということで、今回、案として準備したものであります。

ちょっとまだ漠然としたところがあるかと思えますけれども、少しフリーなところでご意見をいただけたらと思えます。

【永松座長】 いかがでしょうか。

【植木委員】 「美健」というのを使ってありますけれども、もし「美健」を使うのであれば、水俣としての「美健」の定義、ある程度「美健」というのはこういうものかというものを新たに策定してもいいのかなという気がしますが、見れば字のごとくで想像はつきますけれども、ただ、水俣にとっての「美健」というのはこういうものである。美しい環境を保全しながらとか、例えば、心の健康、体の健康とか、そういう美しいという部分もある。ですから、「美健」というものを定義化していくのはあってもいいのかなと。

市民から、川柳じゃないけれども、集めてもいいかもわからないし。

【石原委員】 具体的な内容に関する提案の前に、ちょっと手続的な話として、「めざす地域社会像」は、まさに健康だけの側面ではなく、この少人数で決めにくいところがあると思うのですが、これは実際には市のいろいろなセクター、いろいろな方がどう思っているのかということも関係すると思えますので、これは私たちがとりあえず提案するものと

思ってよろしいのでしょうか、位置づけとしては。

【望月所長】　そうですね。こちらの研究会で、水俣の問題はこういうところにあります、これを達成したならば、こういう像というのをつくっていったならば、水俣地域は住民も、それから地域も含めて発展していけるのではないかとことを整理して、私がいただくことになります。それを市のほうに提案しますが、市がそれをどういうふう施策に活かしていくかはまた市の判断という形になっていきます。ただ、こういう切り口で施策を進めていったならば、こういう発展が期待できるということを提案していくということになります。

実現可能性を踏まえながら、こういうことに取り組んだらどうでしょうかという形をフリーに出していったらいいのではないかと考えています。

【石原委員】　わかりました、ありがとうございます。

では、内容のことに関してですが、先ほど、「みんなまちのたから」というのと「美健」と二つの候補が出たので、それによっても10年先のイメージが変わってくるかなとまず思っているところがあります。

それと、「美健」という言葉について個人的には、前回の研究会で「美しい」という言葉は、水俣の中で若干の立場によって感じ方の違いのある言葉なので、ほかのほうがいいのではないかという話をしたんですけども、もしよろしければ、植木先生に「美健」にかわる何かいいアイデアがあったら一つ捻出していただけると。商標登録がないもので、「美健」ではない言葉で何かないだろうか。水俣は実際に美しいんですけどね、もうちょっと水俣の現状に合った……。

【藤本委員】　そうなんですよね。命とか美しいとか、そういうところはすごく捉え方に差が出てくると思いますね。

【石原委員】　難しさがありますね、差がありますね。どうしたらいいかな。

【植木委員】　今は時間が気になって出てきません。集中すれば出ると思いますけど。

【望月所長】　最後の資料5はともかく、今はフリーにいろいろと考えていただけたらというつもりですので。

【植木委員】　さっきのキャッチフレーズ案も含めて、コンセプト案も含めて、事務局でつくられたものを委員にもう一度、休んでおられる方にも投げかけてもらって、そのときにもう1回フィードバックすれば。

【永松座長】 正直言うと、今日かなり議論したこれですけれども、これが僕的な理解だと将来像を一言で言ったもので、それをもう少し具体的に書いたのがこれだというのが強くて、この言葉をかえたのがこれになっているので、かえる必要があるのかなというのが正直ちょっとあるんですよ。こちらのほうはもう少し、これよりは具体的なんですけども、こっちみたいにより具体的にイメージできるほどの具体性はないですね、ここはね。だから、もし必要なら、これをもう少し詳しくすると、全体像が視覚的なイメージを持って理解できるのかなと。この標語とこれはほとんど似ているけれども、何で別にするのかとか、そういう議論があるのかなという気はしているんですよ。

【石原委員】 仮にですけれども「みんなまちのたから」の路線で、無理やり10年後を考えてみたら、「みんなまちのたから」がプロセスで、「みんなまちのたから、みなまた世界のたから」みたいな。例えばですね。わからないですけれども、そう思ったことは思ったんですが。どこを見ながらつくるかですね。市民にとっての感覚なのか、世界のほかの都市との関係性でつくるのかどうか。

【永松座長】 多分これで説明すると、ここは将来のイメージがあって、こういうまちを目指しますというときは、いろいろ行っていることも書くし、国内外に結果として発信しているとか、活動をいろいろな面から見て、ここに書くと。これもそうですよね、水俣での人間活動をいろいろな切り口で見て、ずっと書いてあるので、似たような形になると思います。

【望月所長】 もし、そののところがこういうふうな表現で、例えば今日のコンセプトをさらに詳細にということであれば、例えば「子どもやその親世代がいろいろなマッチングポイントを通じていろいろと交流を進めながら、楽しく、笑いながら、いろいろな工夫をしながら自立的にやっていて、高齢者も生き生きと、それまでの経験をすごく子どもたちに活かしながらやっている、そういう姿があります」というようなことを将来のイメージとして書いていくというか。それは確かにおっしゃるように、一つの達成された姿だというふうに思いますけれども。

【永松座長】 ここに、「ゼロ・ウェイスト宣言のまちとして、ごみ減量」とか具体的に書いてあるんですよ。だから、例えば、親と子とか、高齢者と子供との交流も具体的に書き込んで。途中でありましたよね、こういうところでこういう形の交流とか、あるいは国内外から学生なり研究者たちが来て、地元の子供たちとか高齢者との交流をするとか、そういうふうに具体的に書き込んでいくと、だんだんイメージができてくる。だから、「多種

多様に交流の場が設けられ」というのを、具体的には例えばどういうところでどんな交流があると書き込んでいくと、全体イメージができてくると。多分そうだと思うんですけどね。

【望月所長】 今、座長がいろいろとまとめていただきましたので、事務局で引き取りまして、ここの資料5につきましてはどういうふうに整理していくか、少し改めて検討したいと思います。

それから、もう一つ、今日のコンセプトではいろいろとご意見を頂戴いたしました。それに合わせて、資料4の部分、いわゆる用語の定義のところですが、今日はあまり時間がありませんでしたが、これもいろいろと詰め出したらいっぱい議論があるところだと思います。資料4のところはもう一回更新いたしまして、これについてはまた適宜、先生方のご意見を頂戴するという形で対応させていただきたいと思います。

【永松座長】 それでは、資料4についてはお帰りいただいてごらんいただいて、ここはこう変えたほうがいいのか、ここはちょっと問題があるのではないかと、ここはもう少し詳しく説明したほうがいいのか、そういうところがあったら、まことに申しわけありませんけれども、メールで事務局のほうにご指摘させていただきたいと思います。

それで、事務局のほうで取りまとめて、次の会のあるときに、こういう指摘がありましたのでこうしましたという説明をする形で。これは皆さんへの宿題ということで。

【植木委員】 宿題はリマインドメールを送ってください、2回ぐらい。(笑)

【望月所長】 コンセプト自体が少し変わってしまっていて、例えば「その親世代」の表現をどうするかという問題もありますので、曖昧な部分はあると思いますけれども、まずはお気づきのところで結構ですので意見を寄せていただけたらと思います。

【永松座長】 それと、先ほどのテーマとサブタイトルですね。これは先ほど2通り出しました。これは先ほど言ったように、ほかの方々、地元の方々が気に入ったほうがいいです。それは事務局のほうで、事務局職員とか、ここのアカデミアの職員とか、いろいろ聞いてもらって、多数決で決定させていただくことにしたいと思います。済みません、それでよろしいですか。

【望月所長】 そうですね。ただ、石原委員と藤本委員がおっしゃるように、「美しい」はいろいろと議論のあるところ。そういう意味で、「美健」という言葉は植木委員のご提案でもあるんですけども、ペンディング的になっているかなというところがあります。

【永松座長】 そうすると、残るは「みなまた」の……。

【石原委員】 植木先生に何かいいほかの案をつくっていただくといいなと思うんですよ。

【永松座長】 では、植木委員におかれては、まことに恐縮ですが、宿題ということで。(笑)

【望月所長】 「美健のまち」にかわります何かキャッチがございましたら、ぜひ願います。それをもとに「みんなまちのたから」と、その両案という形で進めさせていただけたらと思います。

【植木委員】 何気に言った言葉ですからね、「美健」というのは。仕事モードでつくっていませんので。

【永松座長】 では、仕事モードのチャンネルにかちっと切りかえていただいて。(笑)

【石原委員】 先生方の話を今日伺っていて思ったのが、この「3世代育みタウン」というのをひっくり返してしまうんですけれども、藤本先生がおっしゃった、中の人と外の人の交流とか、あとは3世代とか、障害を持っている人と持っていない人とか、例えば水俣病事件の被害を受けた人と、変な言い方ですけども逆に加害のほうだった人とか、いろいろな立場の人がいて、交流をして、みんなが健やかに成長するみたいな、ダイバーシティみたいなコンセプトでもおもしろいのかなとほんとうは思ったんですよ。そこが水俣の特徴かなと。

【永松座長】 多分そのコンセプトだと思うんですけど。

【石原委員】 それを、例えばもう「3世代」としないで「多種多様な立場の人の交流を重ねて、それぞれが健やかに成長し」みたいなもおもしろいのかなと、先生方の話を伺っていてちょっと思いました。つまり「3世代」とかではなくて、多種多様な方々の共存、ダイバーシティ、ともに成長するみたいなですね。ふと思ったということでございますが、意外に水俣にぴったりくるのかなと。

【永松座長】 そうすると、「3世代」が要らなくなっちゃいますね。

【藤本委員】 でも、例えば「3世代育みタウン」がメインにあって、そうではない、後ろのこの説明書きのところにイメージとして……。

【永松座長】 具体的なイメージ部分で、この「3世代」というのは年齢で分けてあるので。

【藤本委員】 多分、次世代につながるという意味での「3世代」なんですよね。

【永松座長】 だから、「3世代」というのは子供からお年寄りまで全部ですという趣旨

なので、それはそれでとっておいて、あとは「めざすべき将来像」のところで、先生が言われたような、交流というのはこういう交流が水俣で行われているというのを書き込んでいって、その全体イメージをつくる、多分そういう感じになると思います。

【石原委員】 わかりました。申しわけありません、ありがとうございました。

【望月所長】 一応交流の場としては、やはり多種多様に設けているということが一つのキーになっていると思いますので、そこはそこでいろいろと。ですから、その先でどういう将来像がという、そこら辺が表現できたらと思います。

【石原委員】 ありがとうございます。

【永松座長】 ちょっと今日も時間が足りずに申しわけありませんが。

では、済みません、皆様、宿題のほうは忘れずによろしくお願いします。何かお気づきの点があれば。なければ、特にありませんと返事をいただければと思います。

【藤本委員】 次回については、研究会のあと懇親会と……。

【岩橋室長】 はい、その予定です。

【岩橋室長】 今回は8月1日月曜日、おおむね5時半ぐらいから、ここで開催いたします。それで2時間ぐらいやりまして、その後、8時ぐらいから町なかでと思っております。

それでは、以上をもちまして、本日の会合を閉会いたします。ありがとうございました。

— 了 —